

天使

Tenshi College

vol.12 OCTOBER 2006

看護栄養学研究科について

2006年4月より、本学では「看護栄養学研究科」という新しい大学院を開設しました。看護学専攻(ホスピス・緩和ケア看護学コース)、栄養管理学専攻(栄養管理学コース)の2つの専攻からなり、学部教育を基礎としながら、より高度な専門知識・技術を修得するための充実したカリキュラムを設置しています。今回は看護栄養学研究科の設置事由、両専攻の概要などについてお伝えします。

大学院看護栄養学研究科が開学しました

「看護栄養学研究科」開設までの流れ

学長・看護栄養学研究科長 近藤 潤子

看護・栄養の両分野では高度な専門的 的能力が必要とされています

五十有余年の歴史の上に立つて四年制大学に改組転換した天使大学看護栄養学部は看護学科、栄養学科それにカリキュラムの整備や改訂を進めてきました。今年は3回生が新しい実践の場へと羽ばたいていきました。

少子高齢化時代を迎えて、生活の質が注目を浴びています。この長寿の時代に健康で充実した生涯を生き、平和で安らかな死を迎えることができるよう、生活を支える看護師、保健師、食の側面から支える管理栄養士への期待は、かつてないほ

ど大きく膨らみ、よりいつそう高度な専門的職業教育が要求されるようになってきました。

天使大学看護栄養学部は「愛をとおしてされる基礎的知識と技術を豊かなピューマニズムをもとに提供する職業人となるための学習の場を提供しています。学士課程ではその専門的基本的能力をしっかりと学習することが目的になっています。しかし看護・栄養の分野それにさりに高度な専門的能力が要求されるようになり、この要

大学院修士課程でも求められる ようになった実践家の養成

求に応えるために大学院の開設が必要になつきました。



デボラ・シャーマン教授(右から3人目)の授業風景

学長・看護栄養学研究科長 近藤 潤子

大学院には「修士課程」と「博士課程」が置かれます。わが国では古くから「大学院は研究者を育成するところ」と考えられていましたが、最近、修士課程で高度専門職業人を育成することが推奨され、「専門職大学院」と呼ばれる大学院が設置されるようになりました。また一般型の大学院修士課程でも実践家の育成を行なうことが認められてきました。本学ではわが国初の助産師養成のための専門職大学院として、助産研究科を2004年に開設しました。そして今年は、一般型大学院として看護栄養学研究科を開設し、看護学専攻は実践家(Practitioner)の育成を、栄養管理学専攻は学究型を意図しています。この両専攻を通じて、高い水準の専門家や研究のよき理解者を育成することができます。ひいては本学全体の学びの質を高め、実践の向上に貢献することを期待しています。

「看護栄養学研究科」についてさらに詳しく知りたい方は本学ホームページをご覧ください。

http://www.tenshi.ac.jp/daigaku/index_k.html

看護学専攻

カリキュラムの特徴

1年次には、ホスピス・緩和ケア看護の上級実践者に必要なコミュニケーション能力、ヘルスマネジメントと症状マネジメント能力を、シミュレーション学習などを通じて学びます。また、専門的な知識や技術が現場でどのように活用されているかを経験し、エビデンス(科学的根拠)に基づいた看護実践ができるよう、系統的な思考能力を養います。

栄養管理学専攻

カリキュラムの特徴

「栄養管理学特別研究」および「栄養管理学特別演習」では、栄養管理の現場と連携しながら研究を進め、社会のニーズに対応した栄養管理に有為なエビデンスをつくり、現場にフィードバックする能力の獲得を目指し、修士論文を作成します。

"患者・家族とともにに在る"看護を実践できる上級実践看護師を育てます

ホスピス・緩和ケア看護学コース

大学院看護栄養学研究科 看護学専攻主任・教授 菅原 邦子

わが国では、団塊世代の高齢化により総死亡者数が2020年には150万人となり、がんの死亡者数は50万人になると推定され、病気によるさまざまな苦痛を緩和するケアと終末期ケアは重要課題となっています。

ホスピス・緩和ケア看護学コースは、進行性がんやその他の病気によつて治癒することが難しい病気を持つ患者・家族が最後まで尊厳を感じながら生き、死を迎えるらるよう専門的なケアを提供し、さらに、病院や在宅などの場にかかわらずホスピス・

緩和ケアに関わる医療チームの核となつて看護の専門的立場から機能できる上級実践看護師を育成する課程です。わが国のホスピス・緩和ケアの医療現場では、専門的に支援できる看護師の不足が指摘されており、特に北海道には修士課程修了の看護師は皆無です。

本コースの修業年限は2年、学位は修士(看護学)、定員4名、修了に必要な単位は39単位以上です。カリキュラムの特徴は、①国内外のホスピス・緩和ケア看護学や医療の専門家による実践的な教育プログラム、

②専門的な実践力を段階的に育成するための臨地実習を1年次と2年次に配置、③自分が行った看護実践をエビデンスに基づいて検証する課題研究などです。

ホスピス・緩和ケア看護や医療の発展のために、より専門的な立場から貢献し、キリスト教精神に基づく患者・家族とともにに在ることの深い意味を実践できる上級実践看護師を育てます。現在、1回生が11月からの実習に向けて準備をしています。

栄養のケアをトータルで実践できる管理栄養士を育てます

栄養
管理専攻
について

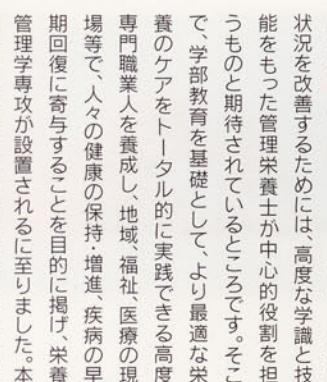
栄養管理学コース

大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻主任・教授 荒川 義人

今わが国では、高齢者の急増とともに、医療費の増加が深刻な社会問題となっており、21世紀の国民健康づくり運動である「健康日本21」の推進は、その代表的な打開策の一つといえましょう。このような社会状況を改善するためには、高度な学識と技能をもつた管理栄養士が中心的役割を担うものと期待されているところです。そこで、学部教育を基礎として、より最適な栄養のケアをトータル的に実践できる高度専門職業人を養成し、地域、福祉、医療の現場等で、人々の健康の保持・増進、疾病の早期回復に寄与することを目的に掲げ、栄養管理学専攻が設置されました。本専攻の教育課程は、修了後の具体的進路を

想定し、そこで求められる能力を培うために、近年著しい発展を遂げている「人間栄養学」を柱とし、栄養管理に関わる基礎・応用(臨床)科目を体系的に配置しました。とくに、各専門領域の一線で活躍されている諸先生を専任あるいは非常勤講師としてお迎えすることができたことが、何よりも本専攻の教育・研究指導体制の充実につながつたと考えます。

本専攻では、修士論文作成に向けて栄養管理に関する研究を進めます。本専攻での研究につきましては、入学前・後から研究指導教員と時間をかけて相談し、最終的に各自の目指す方



向を決定するシステムになつております。4月にスタートした栄養管理学専攻では、現在、1回生の5名が栄養管理に関わる最新の学びと自ら設定した研究課題に取り組んでいるところです。

私は2004年3月、天使大学の1回生として看護栄養学部栄養学科を卒業しました。そして、無事に管理栄養士の国家試験にも合格し、2006年3月まで、在学中に希望していた四年短大で助手として働いていました。

もちろん、助手の仕事は充実していましたが、学生と接する中で私にはまだ栄養に関する知識が足りないと、自信を失つてしまつことがしばしばありました。ちょうどその頃、母校に栄養管理を専攻できる大学院が開設される予定との情報を得て、認可された際には進学しようと決意した次第です。

進学してからも、自分が本当に何を勉強したいのか、何を専門にすればよいのか、なかなか焦点を合わせることができないでいました。そんなとき、斎藤昌之教授に声をかけていたいたことがきっかけで、「栄養生化学」に

触れることができました。遺伝子の発現状況を調べることによって可能になる栄養管理など、以前は見ようともしなかつた生化学の奥の深さに今は心を奪われています。今後はさらにたくさんの知識を吸収し、実験のテクニックにも磨きをかけ、院生生活を存分に満喫したいと思います。



生化学の奥深さに心を奪われています

大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻1年 渡辺 久美子

もちろん、助手の仕事は充実していましたが、学生と接する中で私にはまだ栄養に関する知識が足りないと、自信を失つてしまつことがしばしばありました。ちょうどその頃、母校に栄養管理を専攻できる大学院が開設される予定との情報を得て、認可された際には進学しようと決意した次第です。

進学してからも、自分が本当に何を勉強したいのか、何を専門にすればよいのか、なかなか焦点を合わせることができないでいました。そんなとき、斎藤昌之教授に声をかけていたいたことがきっかけで、「栄養生化学」に

2005年度 学校法人天使学園・天使大学 事業報告

学校法人天使学園・札幌天使女子厚生専門学校は、1947年に「マリアの宣教者フランシスコ修道会」によって設立され、戦後間もない社会の混乱期の中において、高いレベルの看護師、栄養士の養成を目的とする旧制専門学校として開設されました。その後、我が国最初の看護短期大学に組織変更して以来、50年以上にわたって天使女子短期大学として実践力に優れた数多くの専門職者を養成してきました。

2000年4月に、天使女子短期大学の良き歴史と伝統および教育研究組織を基礎として天使大学看護栄養学部看護学科・栄養学科に改組し、2004年4月には専門職大学院助産研究科を設置、さらに2006年4月には大学院看護栄養学研究科(看護学専攻・栄養管理学専攻)を開設予定として今日に至っています。

短期大学から継承された天使大学の建学の精神は「愛をとおして真理へ」であり、この精神は、①自分自身をみつめる内省性、②キリスト教の価値観に基づく研究と学習、③世界の人々と共に歩もうとする人間愛の三つの柱が相互に関連しあって形成されています。そしてこれらは、キャンパスの内外にわたる正課教育、各種大学行事および学生の課外活動等をとおして具現化するように取り組んでいます。

以上の沿革および建学の精神とその教育の柱を基本とし、さらに学校法人および私立大学を取り巻く諸状況等を踏まえつつ進めてきた2005年度の主な事業とその結果は、次のとおりです。

I. 法人の概要

1. 在籍学生数(2005年5月1日現在)

		入学定員		収容 定員	在籍者数					備 考
看護 栄養 学部	看護学科	1年	3年		1年	2年	3年	4年	計	
	栄養学科	85	5	350	91	88	104	94	377	編入学3年9名4年10名
	計	165	20	700	190	186	194	203	773	編入学3年9名4年15名
専門職大学院		40	-	80	34	27	-	-	61	
合 計		205	20	780	224	213	194	203	834	

注: 学部生および大学院学生数は、前年比43名の増加である。

2. 教職員の概要(2006年3月31日現在)

		教 員						職 員			備 考	
学 部	教授	助教授	講師	助手	計	兼務	合計	本務	兼務	計		
	18	15	18	7	58	80	138	35	10	45		
	大学院	8	2	5	-	15	24					
計	26	17	23	7	73	104	177	35	10	45		

注:
 ①本務教員数は、学部で前年度比6名減員、大学院で4名増員となっている。
 ②本務職員数は、雇用形態の変更により前年度比7名の増員となっている。

3. 役員等の概要

(2006年3月31日現在)

理 事	
定員	7名
現員	
定員	7名
監 事	
定員	2名
現員	
定員	2名
評議員	
定員	15名
現員	
定員	15名

注: 理事、監事、評議員は、前年同数である。

II. 事業の概要

1. 教育活動の充実

学部教育は完成後の3年目に入り、改訂後の教育課程の展開が実質化するのに伴い、特に本学の特色である実践的学習に裏打ちされた教育活動を積極的に実施し、予定していた学生数を十分確保しました。

2. 専門職大学院助産研究科の展開

助産研究科は2年目の完成年度に入り、設置の趣旨に沿ったエビデンスに基づく教育展開を進めました。また、特にインターンシップの実習展開にあたってはIT機器の活用、整備を積極的に行って、本学と実習機関との連携強化を図りました。しかし、経済的(学費)状況および本研究科の教育活動が十分社会に浸透していない等の事由から定員を確保することができませんでした。

3. 栄養教諭教職課程の取り組み

新たに制度化された栄養教諭教職課程を開設したことに伴い、栄養学科1年次99名中87名が栄養教諭教職課程履修者となりました。なお、学生に対して栄養教諭の資格取得および栄養学科の教育目的である管理栄養士の資格取得の両立を図れるよう積極的にガイダンスを行いました。

4. 新たな大学院の設置認可申請

2004年度から準備を進めてきた看護栄養学研究科(看護学専攻:4名、栄養管理学専攻:3名)の設置認可申請を行い、2006年1月31日に認可され、4月1日開設となりました。

5. 自己点検評価およびFD活動の取り組み

(1)過年度から進めてきました自己点検評価は、2000年度から2004年度までの5年間をひとまとめとしてその報告書の作成を行いました。また、2006年度には、学校教育法の定めに基づく認証評価機関としての(財)大学基準協会の加盟判定審査および第三者評価を受ける予定です。

(2)自己点検評価の取り組みの一環として、「学生による授業評価」(13項目4段階評価)ならびに「学生満足度調査」(25項目4段階評価)を全学統一で実施し、授業内容および教育方法改善ならびに施設設備等に関する意見・要望等のデータを収集しました。

(3)FD活動については、全教職員を対象とする修養会(地主敏夫司教による「カトリック教会とカトリック大学」に関する講話等)およびFD研修会(ヘネロソ・フローレス司祭による「建学の精神と教育活動」に関する講演会)を開催しました。

6. 川原ユキエ記念奨学金制度の発足

本学では、従前から貸与奨学金制度を設けて学生の経済的支援を行っていますが、さらに奨学金制度を充実させるために、札幌天使女子厚生専門学校初代校長川原ユキエ先生のご遺族からの寄付を契機として、同先生を記念する給付奨学金制度を新たに発足させました。これにより、学部学生12名、大学院学生2名が奨学生として採用されました。

7. 財務に関する規程の整備と財務状況の公開

私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更および財務に関する諸規程の整備を行い、それに基づいて財務情報ならびに事業計画・事業報告をより積極的に公開することに努めました。そのため、学報(「天使」)へそれらの情報掲載を行うと共に、大学のホームページにも情報公開に関する取り扱いについての案内を掲載しました。

8. 卒業生への大学情報の提供と寄付金の募集

前身学校創設以来、約8,500名にのぼる卒業生に対して、大学からの情報提供(現況報告等)を定期的に行うことを決定し、同窓会からの住所録提供のご協力を得て2006年2月に初回の発信をしました。併せて、卒業生に対して「教育振興寄付金」の募集を行い、年度末までに多くの方から貴重なご協力をいただきました。なお、卒業生に対する現況報告と寄付金募集は、今後、年1回定期的に行います。

9. 既設の施設設備の修繕および整備

昨年行った3号館に引き続き、1・4号館の屋上および外壁の補修ならびに経年劣化による腐食が著しい体育館の暖房配管の補修を行いました。また、新たに大学院を開設するために、5号館の演習室等を研究室および大学院生學習室へ変更する間仕切り工事を行いました。

第53回天使祭「絆～Bonding～」が開催されました

2006年6月23・24日(金・土)の両日、第53回天使祭が開催されました。模擬店、カラオケ大会など毎年おなじみのイベントに加えて、今年は新しい試みが目立ちました。なかでも札幌市東区とのコラボレーションによる「東区音頭」や「巡回し」、セラピー犬とのふれあい、お笑い芸人の招致などは好評を博し、実行委員会の企画力、入念な準備、チームワークがうまく結実した、素晴らしい天使祭となりました。

天使祭を通してさまざまな「絆」を感じることができました

天使祭実行委員長・看護学科2年
武田 由貴



第53回天使祭のテーマは、「絆～Bonding～」でした。人間関係に必要な「絆」を感じてほしいと思い、ぜひひだ大学祭という場でテマに決めました。私たち輩の会(学生相互の親睦を目的とした学生組織)は「私たちにしかできないような大学祭にしようと半年前から企画立案を始めました。毎年恒例のカラオケ大会今までよりも規模を拡大させた模擬店、東区保健センターの方々による展示会や東区音頭の披露、

セラピー犬とのふれあい、ヨサコイの披露など今までないような企画も考えました。

しかし私たちにとって一番大変だった企画は「お笑い芸人のステージ」でした。事務所と小まめに連絡をとり、毎晩本番に向けての練習を重ねました。夜遅くまで私たちはこの企画を成功させるための準備を続けました。天使祭本番が近づいてくるにつれ、輩の会メンバーにも疲れが見え始め、ぶつかり合うことも多々ありました。このような状態で大学祭を迎えるのかという不安もよぎりました。

しかし心配する必要はありませんでした。お笑い芸人のイベントの開演前、体育館の前には学生の行列ができていました。この企画を楽しみにしていたという学生の顔を見たときは涙が

出そ�でした。イベントが始まるときの学生の大歓声と同時に芸人が登場し、みんなで楽しく笑うこと

が、とてもやりがいのある役職だったと感じています。リーダーシップをとる重要さ、仲間を信頼し、また信頼されることの大切さを学びました。私自身、この大学祭でさまざまな「絆」を感じることで、あたたかい気持ちになれたことをうれしく感じています。

セラピー犬は、特別に訓練された犬ではなく、家庭犬として生活しており、基本的なしつけがなされ、攻撃性がなく、人間にうつる病気を持っておらず、そしてなにより人間と関わることが大好きな犬であるということを少しだけ感じています。セラピー犬は、特に訓練された犬ではなく、家庭犬として生きており、基本的なしつけがなされ、攻撃性がなく、人間にうつる病気を持っておらず、そしてなにより人間と関わることが好きなんだあるということを少しだけ感じています。セラピー犬は、特に訓練された犬ではなく、家庭犬として生きており、基本的なしつけがなされ、攻撃性がなく、人間にうつる病気を持っておらず、そしてなにより人間と関わることが好きなんだあるということを少しだけ感じています。セラピー犬は、特に訓練された犬ではなく、家庭犬として生きており、基本的なしつけがなされ、攻撃性がなく、人間にうつる病気を持っておらず、そしてなにより人間と関わることが好きなんだあるということを少しだけ感じています。



天使祭にセラピー犬が登場！

皆さんは、「セラピー犬」のことをご存知ですか? セラピー犬とは、「北海道ボランティアドックの会」で認定された、動物介在活動を行っている

犬のことです。具体的な活動としては、老人保健施設等に伺って、入所している方と30分程度のふれあいを持ったりしています。北海道には、約100頭余りの犬がセラピー犬として登録されていますが、実際の活動に見合った数にはまだまだ不足の状態です。

セラピー犬のことをもっと知つてもらいたいという思いと、忙しい日々を送る学生たちにとって癒しのひとときになつてほしいとの思いから、今年初めて天使祭にセラピー犬を招きました。天使祭実行委員会、学生課、ボランティア学生の協力のもと、たくさんの方がセラピー犬とふれあう機会をもつことができ、本当によかったです。セラピー犬は、特に訓練された犬ではなく、家庭犬として生きており、基本的なしつけがなされ、攻撃性がなく、人間にうつる病気を持っておらず、そしてなにより人間と関わることが好きなんだあるということを少しだけ感じていただけたのなら、うれしい限りです。

(看護学科講師 三條裕子)

エール大学名誉教授、ヘレン・バーニー先生の講演会を開催しました

2006年3月7日(火)、本学においてエール大学名誉教授のヘレン・バーニー先生による

公開講演会(主催:本学大学院助産研究科)が開かれました。「臨床での自律した助産実践とは?」をテーマに約2時間、熱意を込めて語られ、会場は世界的に有名なバーニー先生の講義

を一目見ようと、多数の助産師、助産を学ぶ学生であふれ返りました。

バーニー先生は略歴(下記)にあるとおり、米国の助産師の歴史的発展に多大な貢献をされた方です。今回の来日は、日本助産学会20周年記念式典での招聘(しようへい)講演が目的でしたが、この機会にせひととも北海道の助産師の方にも、自律した助産のあり方を示していただきたいと、この公開講演会を企画しました。

100名以上の参加者を前にバーニー先生は、米国でも1970年代までは、医師の監督の下でと考えられていました。医師の自律した助産と認められ、お互いの立場を尊重するという考え方へ進歩した経緯につ

◆ヘレン・バーニー・バースト(Helen Varney Burst)
エール大学看護部名譽教授。
University of Mississippi Medical CenterやMedical University of South Carolinaなどの助産師養成課程に影響を与え、また助産学についてアメリカで初めて出版された教科書の著者でもある。Family Birthcenterをヨネカット州ニューヘイブンに設立、センター長を務めた。アメリカ看護・助産師協会(ACNM)会長(1977-81年)、国際助産師学会ACNM代表などを歴任。アリスカにておける看護師・助産師教育50周年目の1982年、ACNMからHattie Hemschemeyer賞を受賞。

第2回オープンキャンパスが開催されました

2006年7月22日(土)に看護学科、7月23日(日)に栄養学科のオープンキャンパス(第2回)が行われました。厳しい暑さにもかかわらず全道各地からお集まりいただき、看護学科120名栄養学科144名の参加がありました。

内容は両学科とも盛りだくさんで、参加者の実習体験を重視した「模擬授業」、本学在学生、教員と密にコミュニケーションを取るできる「交流会」がとりわけ好評でした。参加者は大学案内パンフレット等の情報からは計れない本学の雰囲気を感じ取り、志望校選びのいい機会となつたようでした。



あなたの声をお聞かせください
天主大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 学報チーム tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第12号 2006年10月23日 発行 天使大学広報委員会 年2回発行(秋、春)

<http://www.tenshi.ac.jp>